

2019 年度 福祉助成金（活動助成）成果報告書

提出用

公益財団法人 橋本財団
理事長 橋本 俊明 様

2020 年 5 月 17 日

ふりがな	とくていひえいりかつどうほうじんおかやまうーふえ			
団体名	特定非営利活動法人おかやま UFE			
代表者名	役職名	理事長	氏名	水谷 賢
連絡先	住所	岡山市北区大供表町 14-2 ふたば 101		
	TEL	086-231-0841		
	E-mail	sumasapo@utenti.click		
	URL	https://utenti.click/		
設立年（西暦）	2017 年			
主な活動	住まいと暮らしのサポートセンターおかやま シェルター あおば食堂			
活動の対象者	障がい者、その家族 住宅確保要配慮者等			
助成活動名	住まいと暮らしに困りごとがありながらも、地域で暮らしたいというすべての方の相互支援支援事業、あおば食堂運営事業			
助成額	600,000 円			
実施内容	目的	住まいと暮らしに何らかの困りごとがありながらも、地域で暮らしたいというすべての方（例えば、高齢者、障がい者、刑余者、被災者、ひとり親世帯、生活保護受給世帯などが考えらるが、これらの方に限らず、地域で暮らしていきたいと願っているすべての方（以下、「本事業対象者」という）が、地域住民の 1 人として、日常生活上の様々な困りごとがあっても、地域住民や支援者とのつながりや支え合いの中で暮らし続けられる地域づくりを目指した。		
	内容	よるカフェうてんてでは、精神障がい等の当事者やその家族の方をマスターとして雇用し、障がいの当事者等が気軽に立ち寄ることができる居場所の提供を行った。土日祝の夕方 6 時から 9 時の営業を 7 月末まで行った。 あおば食堂は津山市内で 8 月より月 1 回開催し、参加者がお互いに相談したり、ボランティアや当法人役職員らに相談できる場を、食を通じて提供した。		
	成果	よるカフェうてんてでは客層が当事者から家族にシフトしていた。マスターからの聞き取りによると、悩みを持った家族が同じような家族とのつながりを求めていると思慮される。 あおば食堂では、若い学生ボランティアや社会人ボランティアが高齢者にとって元気の源になったとの話を頂いた。食を通じた居場所の提供を行い、地域の活性化にも質することができた。		
今後の課題と対応策	よるカフェうてんては建物解体建て直しのため休止中だが、客層が当事者から家族にシフトしていたため、広報の方法を再検討する必要があると考える。再開時には、障がいの家族会への広報も考える。 あおば食堂は今年度も津山で実施する予定だが、予算や広報をどうするか思慮しているところである。			
参加者・利用者の感想など	毎月のあおばの日。皆さんに会える事を楽しみにしています！いろいろな人達との交流も楽しみです。こんだてのメニューなどを考えるのも楽しみの 1 つです。あおばに来て 1 年すぎますが、阪井さんはじめみなさまにおせわに相成り楽しいです。ありがとうございます。（70 代女性） 9 月からお世話になり何回か来させて頂き、皆様と家族のようにしていただき毎回来るのが楽しみです。又今後ともよろしくお願い致します。（60 代女性）			

今回初めて参加させていただいて、津山の人だけでなく、岡山市や他県から来たという人がいて、びっくりしました。色んな人との交流ができる場だなと感じました。専門職の方も時々来られるということでこの場で相談を聞いてもらえることもあるようなので、身近にこのような場所があることはとてもすばらしいなと思いました。また、開催するときには参加したいです。(大学2年女性)

今回初めて「あおば食堂」に参加させていただきました。小さなお子さんから大人の方までたくさんの方が来られていました。初めは何をすればいいのか分からず、動いていませんでしたが、ここに来られた方々と色々なお話ができて良かったです。私自身また、あおば食堂に参加したいなと思いました。今日は本当にありがとうございました(大学2年女性)

写真の提出



(餅つき大会 12月)



(いのしし汁とアラスカご飯 2月)



よるカフェうてんて あおば食堂

活動報告書



特定非営利活動法人おかやまUFE

目次

1. はじめに	2P
2. よるカフェうてんて概要	3P
3. あおば食堂概要	4P
4－1. 考察(よるカフェうてんて)	8P
4－2. 考察(あおば食堂)	9P
5. 巻末資料	10P

1. はじめに

特定非営利活動法人おかやまUFEでは、令和1年度、公益財団法人橋本財団の福祉助成を受けて、よるカフェうてんとあおば食堂の運営を行いました。

よるカフェうてんでは、統合失調症やうつ病など精神障害のある人が気軽に立ち寄れる場所として立ち上げました。土・日曜と祝日のいずれも夕方から夜にかけて運営しました。この曜日・時間帯は、病院が開いておらず、また事業所等も開いていないことが多く、不安になることも多い時間帯であるため、その隙間を埋めるためにこの事業を開始しました。

店内ではコーヒーや紅茶、ジュースなどのドリンクを100円で提供しました。精神疾患の経験のある方やその家族による相談対応も随時受け付けました。

なお、うてんて建物解体取壊しに伴い、よるカフェうてんでは令和1年8月から休止となっています。

あおば食堂は、住まいと暮らしに困りごとを抱え、孤立しやすい、地域で暮らしているすべての方（高齢者、障害者、刑余者、被災者、ひとり親世帯、生活保護受給世帯など）が、地域住民の1人として、日常生活上の様々な困りごとを抱えつつも、地域住民や支援者とのつながりや支え合いの中で暮らし続けられる地域づくりを目指し、令和1年5月～令和2年2月まで開催しました。

両事業に共通するのは、「飲食を通じて、当事者やその家族らがお互いに悩みや困りごとを話し、解決方法を一緒に考える場を提供した」という点です。

ケースによってはボランティアの助力や専門職のアドバイスを得ることもありましたが、困りごとを抱えている人らが、地域住民の1人として地域で暮らしていくことができるよう、その下支えとしてカフェや食堂の事業を行いました。

2. よるカフェうてんて概要

統合失調症やうつ病など精神障害のある人が気軽に立ち寄れる場所として立ち上げました。
(平成28年8月から事業開始)



よるカフェうてんての営業時間は、土・日・祝の18時～21時。なぜ、このような時間に営業するのか。

それは、この曜日・時間帯は病院が開いておらず、また福祉系の事業所も開いていないことが多く、精神疾患のある方にとっては、突然の不安に駆られることが多い時間帯であるため、その隙間を埋めるために気軽に立ち寄れる場所として事業を開始しました。

名前の由来は、“よる”は「夜」にふらっと「寄る」ことができる場所。“うてんて”はイタリア語の「utenti」(当事者)に由来します。

店内では、コーヒーや紅茶、ジュースなどのドリンクを一律100円で提供しました。

カフェのマスターは、精神疾患の経験のある方やその家族の方に担ってもらい、お客さんからの何気ない相談や愚痴を聞きました。

なお、うてんての建物解体に伴い、令和1年7月末をもってよるカフェうてんて事業は休止となっています。

3. あおば食堂概要



住まいや暮らしに困りごとを抱え、孤立しやすい地域で暮らしているすべての方（高齢者、障がい者、刑余者、被災者、ひとり親世帯、生活保護受給世帯など）を「地域居住定着要支援者」と定義し、その方が地域住民の一人として、日常生活上の様々な困りごとを抱えつつも、地域住民や支援者とのつながりや支え合いの中で暮らし続けられる地域づくりを目指しています。

令和1年度は、津山市内でみんな食堂（あおば食堂）を、5月～2月の間で10回開催しました。12月は餅つき大会を開催しました。総参加者数延べ351名、うち子どもが延べ43名、うちボランティアが延べ93名でした。

18歳未満の子どもは参加料は無料とし、延べ43名の子どもに参加いただきました。あおば食堂の参加者の約12.3%が子どもであり、一定数の子どものニーズがあることが分かりました。

あおば食堂では、参加料として300円/人が必要ですが、ボランティアや子どもは無料としました。ボランティア登録していなくても、当日、お皿洗いや配膳の手伝いをした人は無料としました。



ボランティアでは対応が難しかった参加者からの相談については、当NPOから参加した弁護士や医師、宅地建物取引士などの専門家が応じました。

（相談事例）

- ① 「お米や服がない」とのシングルマザーからの相談では、フードシェアリングからご提供いただいたお米等を渡しました。
- ② 「津山へ転居後、ママ友ができない」という母親からのお悩み相談では、津山市の保健師に、何か参加できる会等がないか照会し、会のパンフレットを相談者に渡しました。
- ③ 薬物依存の相談では、ダルク体験者と一緒に「今やめないと一生やめられない」等、薬物依存の怖さ等の話をしました。

本事業では、参加者同士で日常生活の困りごと等を相談・解決する狙いがありましたが、加えてボランティアや専門職が相談を受けて困りごと等の解決をしました。本事業を通じて、困りごとを抱えている人々が地域で暮らしていく助力となり、地域貢献していきたいと考えています。



表1. メニューと参加者数一覧表

実施月	メニュー	参加者数	うち、ボラ ンティア	うち、 スタッフ	うち、 子ども
5/25	カレーライス	28	(5)	(1)	(3)
6/29	ソーメン お寿司	44	(9)	(1)	(6)
7/27	カレーライス	35	(5)	(2)	(8)
8/31	ぶっかけソー メン ちらし寿司	27	(8)	(1)	(2)
9/28	ちらし寿司 トン汁	37	(13)	(1)	(9)
10/26	ラーメン 炊き込みご飯	30	(9)	(2)	(2)
11/30	パン シチュー	32	(13)	(1)	(1)
12/21	餅つき大会	62	(11)	(2)	(10)
1/25	うどん おにぎり	27	(16)	(2)	(0)
2/22	いのしし汁 豆ごはん	29	(4)	(2)	(2)
合計人数		351	(93)	(14)	(43)

表2. 参加者数と内訳表

参加者内訳	合計（人）	平均（人）	率
参加総数	351	35.1	100%
うち、ボランティア数	(93)	(9.3)	26.5%
うち、こども数	(43)	(4.3)	12.3%

あおば食堂アンケート(感想)

あおば食堂では、アンケートを実施して参加者やボランティアから感想をいただきました。一部紹介します。

毎月のあおばの日。皆さんに会える事を楽しみにしています！いろいろな人達との交流も楽しみです。こんだてのメニューなどを考えるのも楽しみの1つです。あおばに来て1年すぎますが、阪井さんはじめみなさまにおせわに相成り楽しいです。ありがとうございます。(70代女性)



9月からお世話になり何回か来させて頂き、皆様と家族のようにしていただき毎回来るのが楽しみです。又今後ともよろしくお願い致します。(60代女性)



今回初めて参加させていただいて、津山の人だけでなく、岡山市や他県から来たという人がいて、びっくりしました。色んな人との交流ができる場だなと感じました。専門職の方も時々来られるということでこの場で相談を聞いてもらえることもあるようなので、身近にこのような場所があることはとてもすばらしいなと思いました。また、開催するときには参加したいです。(大学2年女性)



今回初めて「あおば食堂」に参加させていただきました。小さなお子さんから大人の方までたくさんの方が来られていました。初めは何をすればいいのかわからず、動いていませんでしたが、ここに来られた方々と色々なお話ができて良かったです。私自身また、あおば食堂に参加したいなと思いました。今日は本当にありがとうございました。(大学2年女性)

4-1. 考察と今後に向けて (よるカフェうてんて)

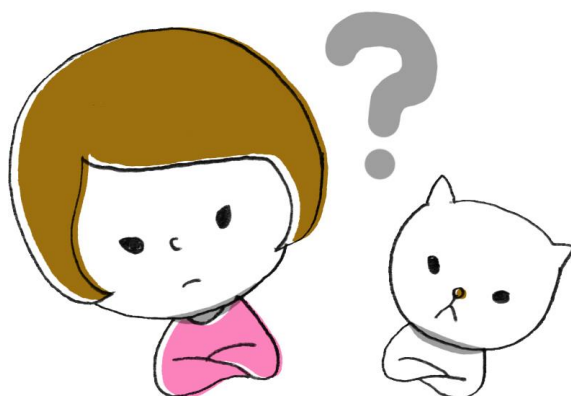
よるカフェうてんては、平成28年度の開所当初より精神疾患の当事者の方の利用が多かったのですが、平成30年度頃からは、当事者の来客数が少なくなっていました。その理由は、よるカフェうてんてが、当事者にとって“お守りの存在”になっていたのではないか、と推察されています。

カフェの常連のお客さんなどへの聞き取り調査によると、医療機関や福祉事業所が閉鎖している時間帯でも、「よるカフェうてんてが開いている」「不安になったらそこに行けばいい」と思えることが、特に精神疾患のある方にとって何らかの安心感に繋がっていて、よるカフェうてんてに実際に足を運ばなくても不安に駆られることが少なくなったと考えられるからです。

平成31年度頃からは、当事者に代わって当事者の家族の方が、同じ悩みを持っているであろう方との繋がりを求めて来店するというケースが多くなりました。

現在、どのようなニーズがあるのか等の調査のためにも、来客数を増加させることが必要であると考えています。そのためにも、ニーズに合わせた広報をしていく必要があると考えています。

よるカフェうてんてについては、現在、うてんての建物建替え解体のため休止していますが、建物再建築後、よるカフェうてんてを再開する予定になっています。



4－2. 考察と今後に向けて (あおば食堂)

あおば食堂は、令和1年度は津山市内で開催しました。ボランティア募集をかけたところ、学生をはじめとして社会人の方もご参加くださり、10回で延べ93名の方にご協力いただきました。

特に若いボランティアは高齢の参加者に好評で、「元気をもらえた」「次回も来てね」と言ったお言葉をもらえました。

当法人では、ボランティア活用の経験が浅いため、ボランティア希望者へどのようなアプローチをすれば良いのか不透明でしたが、当法人のウェブサイトでの募集や「おかやまNPO・ボランティアサイトつながる協働ひろば」で募集をしていただいたところ、多数のボランティアの方にご参加いただきました。

今年度、あおば食堂を通じて、ボランティア募集の広報の有効性や重要性を認識いたしました。

あおば食堂で使用した食材ですが、スーパーや八百屋等での購入のほかに、農家の方からのご提供や、フードシェアリングでいただいた食材等を有効に活用させていただきました。

また、7月開催時には、ロールケーキの差し入れをいただき、子どもを中心とした参加者に振る舞いました。

朝日新聞社や山陽新聞社に報道記事として取り上げていただき、あおば食堂の意義等を広報していただいたところ、差し入れや食材等のご提供を多数いただくことができました。

活動を知ってもらうための広報は重要だと考えていますが、メディア頼みではなく、自団体からの広報を積極的に行っていく必要があると考えています。

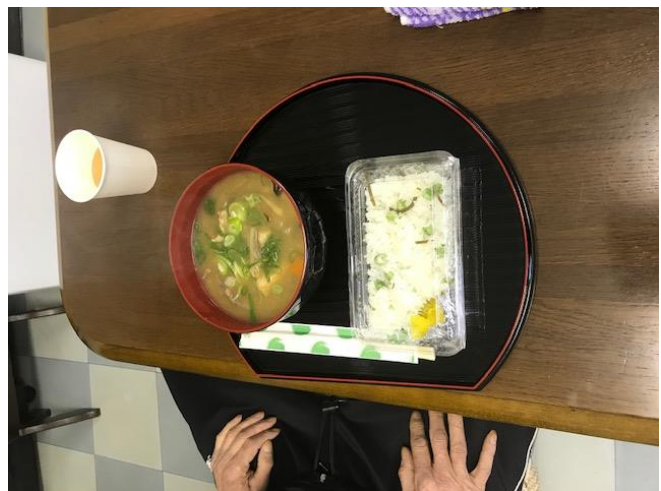
あおば食堂は令和1年度は津山で開催しましたが、好評をいただいているため、令和2年度も津山で開催する予定になっています。

5. 巻末資料 (写真)

餅つき大会(R1.12.21)写真



イノシシ汁と豆ごはん(R2.2.22)写真



巻末資料（報道記事）

困りごと 食べながら相談

「あおは食堂」津山で始まる

「あおは食堂」は、津山市の中心部から車で10分ほど離れた田舎に、小さなアパートで、毎月最終土曜日のランチタイムに「開店」する。

ランチ代は、子どもは無料、大人は300円、16席の小さな店に30人、40人が訪れ、待ち行列ができることもある。

自らを「不動産屋のおばちゃん」と呼ぶ、約20年前から、さまざまな事情で住む所を見つけたくない人の住まいを、探す支援活動をした。

「あおは食堂」を開く「パートナー」の、住居確保が難しい人用に整備した建物だ。

元は普通のお店だった。パブル屋敷の直前、父が財布を

「あおは食堂」は、津山市の中心部から車で10分ほど離れた田舎に、小さなアパートで、毎月最終土曜日のランチタイムに「開店」する。

ランチ代は、子どもは無料、大人は300円、16席の小さな店に30人、40人が訪れ、待ち行列ができることもある。

自らを「不動産屋のおばちゃん」と呼ぶ、約20年前から、さまざまな事情で住む所を見つけたくない人の住まいを、探す支援活動をした。

「あおは食堂」を開く「パートナー」の、住居確保が難しい人用に整備した建物だ。

元は普通のお店だった。パブル屋敷の直前、父が財布を

令和1年5月27日 朝日新聞記事

住まいを軸に弱者支援

「不動産屋のおばちゃん」 阪井ひとみさん(60)

はたいて土地を買った。で、な土地にたも、家が建てられない無償。知識がないと、だまされ

「あおは食堂」は、津山市の中心部から車で10分ほど離れた田舎に、小さなアパートで、毎月最終土曜日のランチタイムに「開店」する。

ランチ代は、子どもは無料、大人は300円、16席の小さな店に30人、40人が訪れ、待ち行列ができることもある。

自らを「不動産屋のおばちゃん」と呼ぶ、約20年前から、さまざまな事情で住む所を見つけたくない人の住まいを、探す支援活動をした。

「あおは食堂」を開く「パートナー」の、住居確保が難しい人用に整備した建物だ。

元は普通のお店だった。パブル屋敷の直前、父が財布を

令和1年8月18日 朝日新聞記事

「こども食堂」に甘い贈り物 津山

お母さん中央と一緒に来た男の子たちは、ケーキをはくくて食べて「うめっ!!」津山市養護

津山のご当地スイーツ「津山ロール」を作っている8菓子店と津山菓子組合の有志が、市内5カ所の「こども食堂」などに、7月の開催日に合わせ順次、ケーキを贈った。

「あおは食堂」（津山市栄保井、子ども無料、大人300円）には27日、大きなフルーツケーキ2本が届けられた。

16席の小さな食堂には、夏休みのお昼を食べに来た中学生や親子連れなど約35人が次々と訪れた。切り分けたケーキは子ども限定で配った。

「今日は特別なケーキがついてるよ」。ボランティアたちが贈ると、子どもたちは「うわー、おいしそう!」と目を輝かせ、口に運んだ。

5歳から小学5年生まで4人の子を連れてきたシングルマザーの森本真歩さん(32)は「夏休みは食事の用意だけで大変。こどもは無料なうえ、今日は特別なケーキまでついていて、とってもありがたかった」と話した。

（中村通子）

令和1年7月31日 朝日新聞記事

巻末資料（広報チラシ）

おかやまUFE



津山 あおば食堂 はじめました。

毎月 最終土曜日 開催予定

みんなで集まって、一緒にお話ししながら食事をしませんか。
 住まいやいつもの暮らしの困りごとを抱えていませんか。誰にも話せずひとりで悩んでいませんか。
 地域で暮らしているすべての方が、地域住民の1人として、日常生活上の様々な困りごとや悩みを、地
 域の皆さんとのつながりや支え合いの中で、暮らし続けられる地域づくりを目指しています。

開催日 毎月最終土曜日
11時30分から14時まで

(2019年度)
 5月25日 6月29日 7月27日 8月31日 9月28日
 10月26日 11月30日 12月21日※(お餅つきの会)
 2020年1月25日 2020年2月22日

参加費 おとな300円 こども無料

メニュー 月替わり

場 所 岡山県津山市紫保井1478-3
あおばA棟 食堂内



ボランティアサポーターも大募集！

- 人とお話しすることが好きな方
- 調理することが大好きな方
- 配膳のお手伝いのお手伝いをしてくれる方
- お皿洗いなど食後の後片付けをお手伝いしてくれる方

お問い合わせ NPO法人おかやまUFE

岡山市北区東古松4-4-22-501
TEL 086-231-0841
Mail sumasapo@utenti.click

おかやまUFE

あおば食堂 ～ご理解ご協力をお願い～

○「あおば食堂」は、地域の皆さんが誰でも気軽に参加できる食堂として、2019年5月より、津山市内で開催いたします。

○地域には、高齢者、障害者、刑余者、被災者、ひとり親世帯、生活保護受給世帯など、住まいや暮らしに困りごとや悩みを抱えながら暮らしている方がいます。

こうした方々は、悩みごとを誰かに打ち明けられなかったり、他の地域から移り住んだために相談できる人がいなかったり、様々な理由で、悩みを一人で抱えていることも少なくありません。

○隣近所のお付き合いも希薄になりつつある中、地域の皆さんと一緒に食事をするを通して、お互いを知るきっかけとなり、日頃から困りごとを相談したり、支え合える環境づくりを行うこと、それが「あおば食堂」です。

○「あおば食堂」には、弁護士・宅建士なども参加します。

皆さんと一緒に食事やお話をしながら、楽しい雰囲気づくりや分からないことの相談など、必要に応じてお手伝いします。

○この事業は、住まいのことや医療・介護、高齢者や障がい者に関することなど、各分野で活動し専門性を有する多くの関係機関が協力して実施しています。

○地域で暮らす方を知ることだけでも誰かの支えになることがあります。お互いを知ることは地域を育む第一歩です。

困りごとや悩みがある方もない方も、おひとりでもご家族でも、ぜひお気軽にご参加ください。



巻末資料（餅つき大会の広報チラシ）

お餅つき大会参加者大募集

毎年恒例のお餅つき大会!!
今年はなんと、津山の「あおば食堂」で開催します。
一緒にみんなでバスに乗って、お餅つき大会の会場まで行きましょう。
バス代は無料!!
ふるってご参加ください。

【参加お申込み・お問い合わせ先】
岡山市北区大供表町14-2 ふたば1階
TEL:086-231-0841
FAX:086-231-0842
Mail: sumasapo@utenti.click

【開催日時】令和元年12月21日(土) 現地:10時からスタート
【岡山集合】※雨天決行
場所:うてんて(岡山市北区東古松2-2-9)
集合時間:7:45 (時間厳守) 8:00時出発
参加費:300円 (現地支払い)
※300円ちょうと持ってきてくれると嬉しいな。

【申し込み】先着順 35名様まで
※参加者・ボランティア・支援者も含む。

【持っていくもの】エフロン・マスク・三角巾(持ってなくても参加OK)
※普段、お薬を飲んでいる人は忘れずに持っていくこと。

バス集合場所

※解散は、「うてんて」に17時頃の予定です。

発行年月日 2020年3月
著作・発行元 特定非営利活動法人おかやまUFE

<連絡先>

事務局住所 〒700-0912 岡山市北区大供表町14-2 ふたば101
法人事務所 〒700-0921 岡山市北区東古松4-4-22 サクラソウ501
特定非営利活動法人おかやまUFE
TEL 086-231-0841
FAX 086-231-0842
ホームページ <https://utenti.click/>
E-Mail sumasapo@utenti.click

公益財団法人 橋本財団 2019年度福祉助成事業

